



国  
特別  
1965

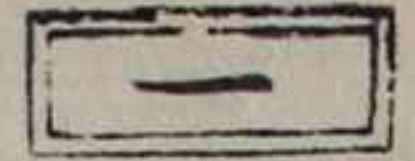
国  
2  
45 4



志満山人作  
歌川國信画

天星いしは歌ニツ巴  
物語  
前編

文政七年  
申新板  
本問屋  
錦森堂版



君子の徳ハ風なり。小人の徳ハ草なり。草に風と云ふは、  
今や津浦より西風よ吹くる。艸もたれ。居るがらに、  
を知る。夫が中より、金集談と云ふ書あり。昔は妖怪迷  
實にたれ。是れ母のれ。其の迷ひよ。其れと見ると  
書載きり。是れホの事なり。とばは。陸野が奇度。逢  
星と云ふ。奇談のさびた。大鷲が下。飛子行。執打の其  
琴歌がさ。つり。めん。實情。主治の貝。薬種屋を。加  
減。其の強。庵。針打。若菜の。波。二ツ巴と題するの。

文政七甲申春正月吉日

志満山人識





恋塚子  
あま  
あま  
男  
斜嶺



○ 矢間喜内  
娘

若菜

郎の  
うんと  
きん  
高杉  
あま  
あま  
涼菟



○ 流平二後妻  
落葉

○ 藥種屋

仁二郎



定九郎がまよ

九郎と大郎

實ハ塩谷家臣  
行九太丈伴

後の  
自

二七



正秀  
ゆき子の

男達市高

實ハ塩谷家臣  
大就鳥文吾

三浦屋  
琴敷  
其角  
うめの花  
菱のよんあや

二七



此の如くは、いふに、さきかへりて、  
 れいのかた、つゝ、ちの、さきかへりて、  
 御女、あま、ま、と、さきかへりて、  
 せん、さきかへりて、の、さきかへりて、

ちの、さきかへりて、  
 せん、さきかへりて、  
 ちの、さきかへりて、  
 せん、さきかへりて、

此の如くは、いふに、さきかへりて、  
 れいのかた、つゝ、ちの、さきかへりて、  
 御女、あま、ま、と、さきかへりて、  
 せん、さきかへりて、の、さきかへりて、



此の如くは、いふに、さきかへりて、  
 れいのかた、つゝ、ちの、さきかへりて、  
 御女、あま、ま、と、さきかへりて、  
 せん、さきかへりて、の、さきかへりて、

ちの、さきかへりて、  
 せん、さきかへりて、  
 ちの、さきかへりて、  
 せん、さきかへりて、

此の如くは、いふに、さきかへりて、  
 れいのかた、つゝ、ちの、さきかへりて、  
 御女、あま、ま、と、さきかへりて、  
 せん、さきかへりて、の、さきかへりて、











101

この魚はまづか  
られるのうらわ  
ちのねくや  
まづの  
あつあつ  
まづの  
たき  
上  
だ



102

この魚はまづか  
られるのうらわ  
ちのねくや  
まづの  
あつあつ  
まづの  
たき  
上  
だ  
この魚はまづか  
られるのうらわ  
ちのねくや  
まづの  
あつあつ  
まづの  
たき  
上  
だ

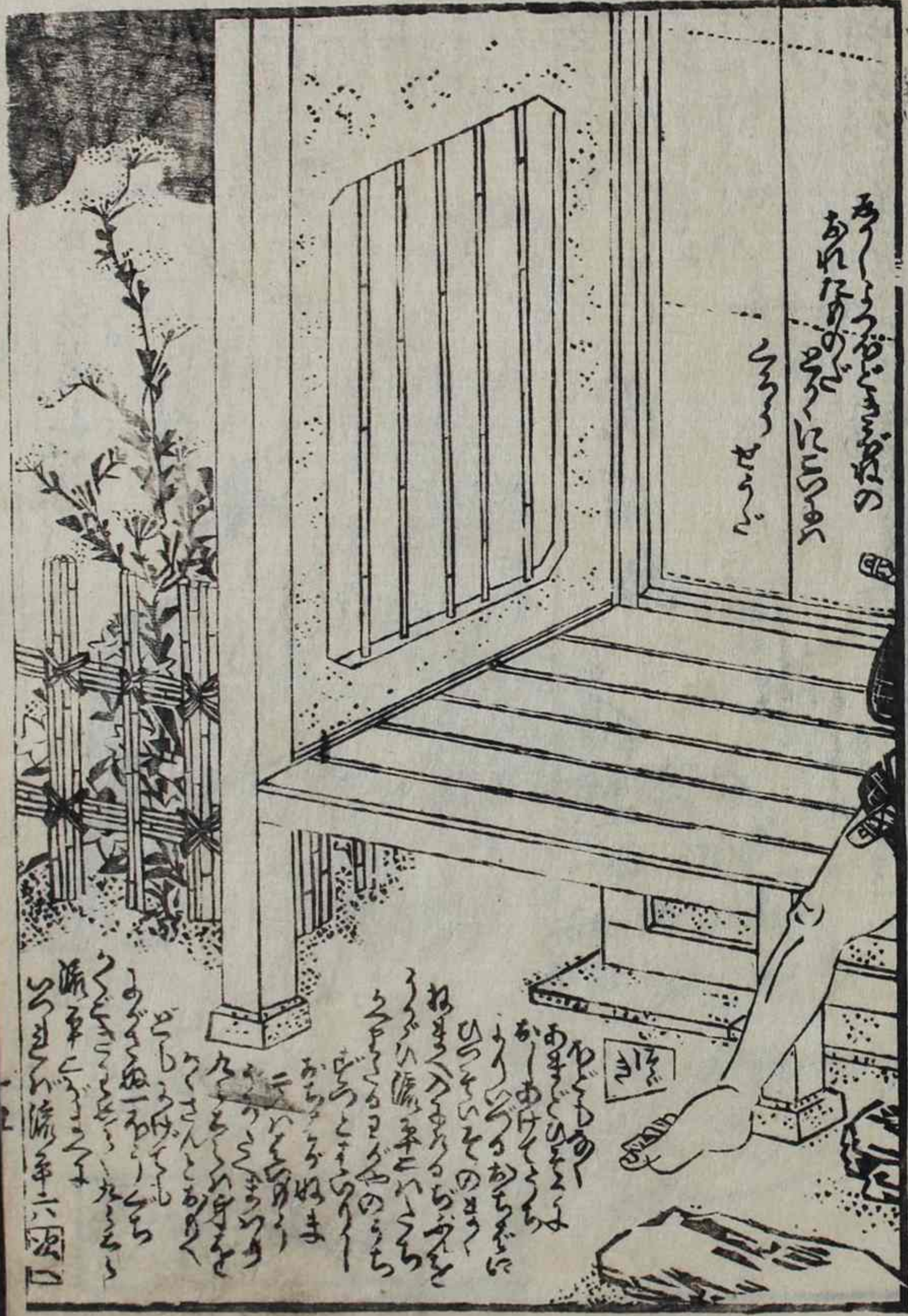








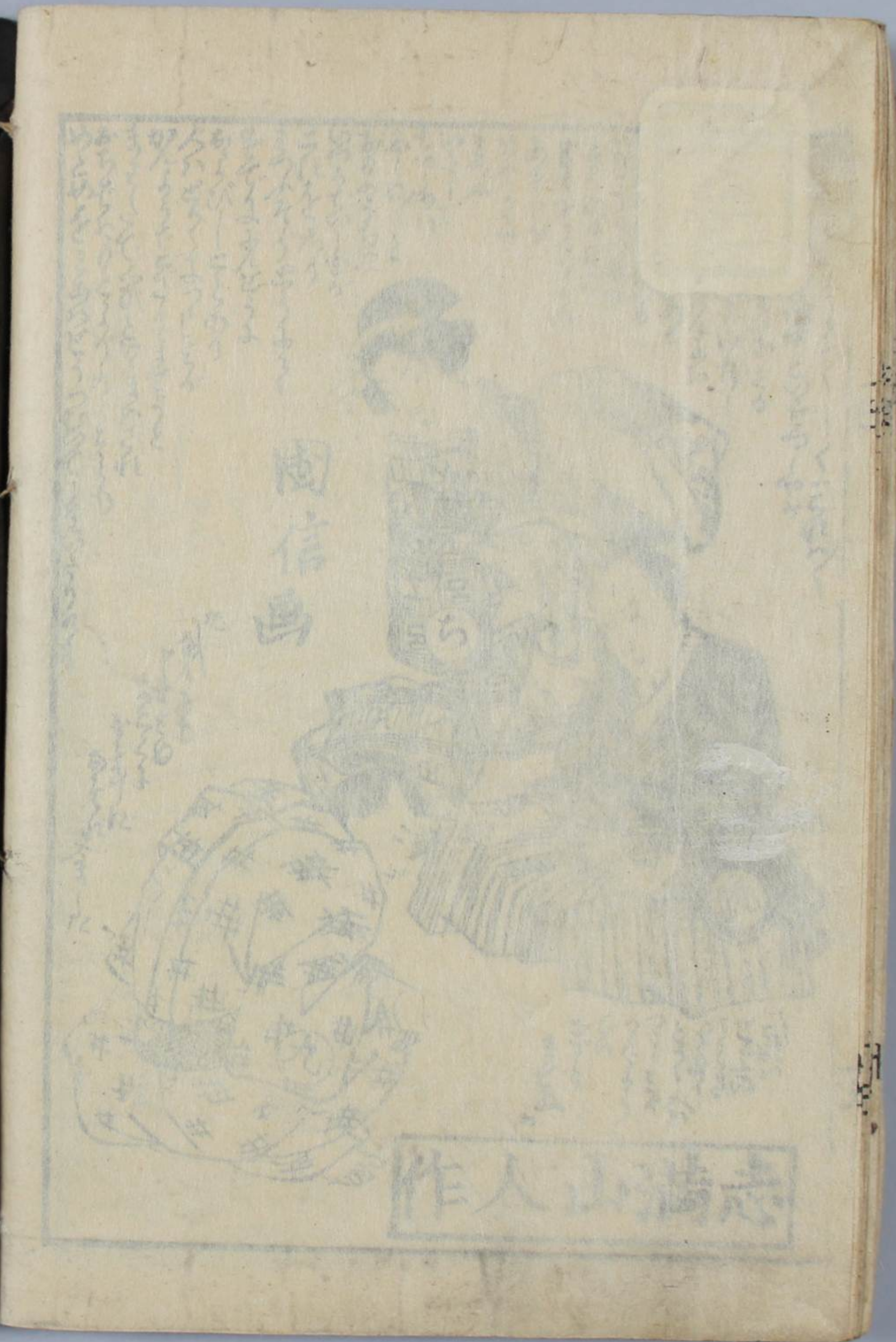
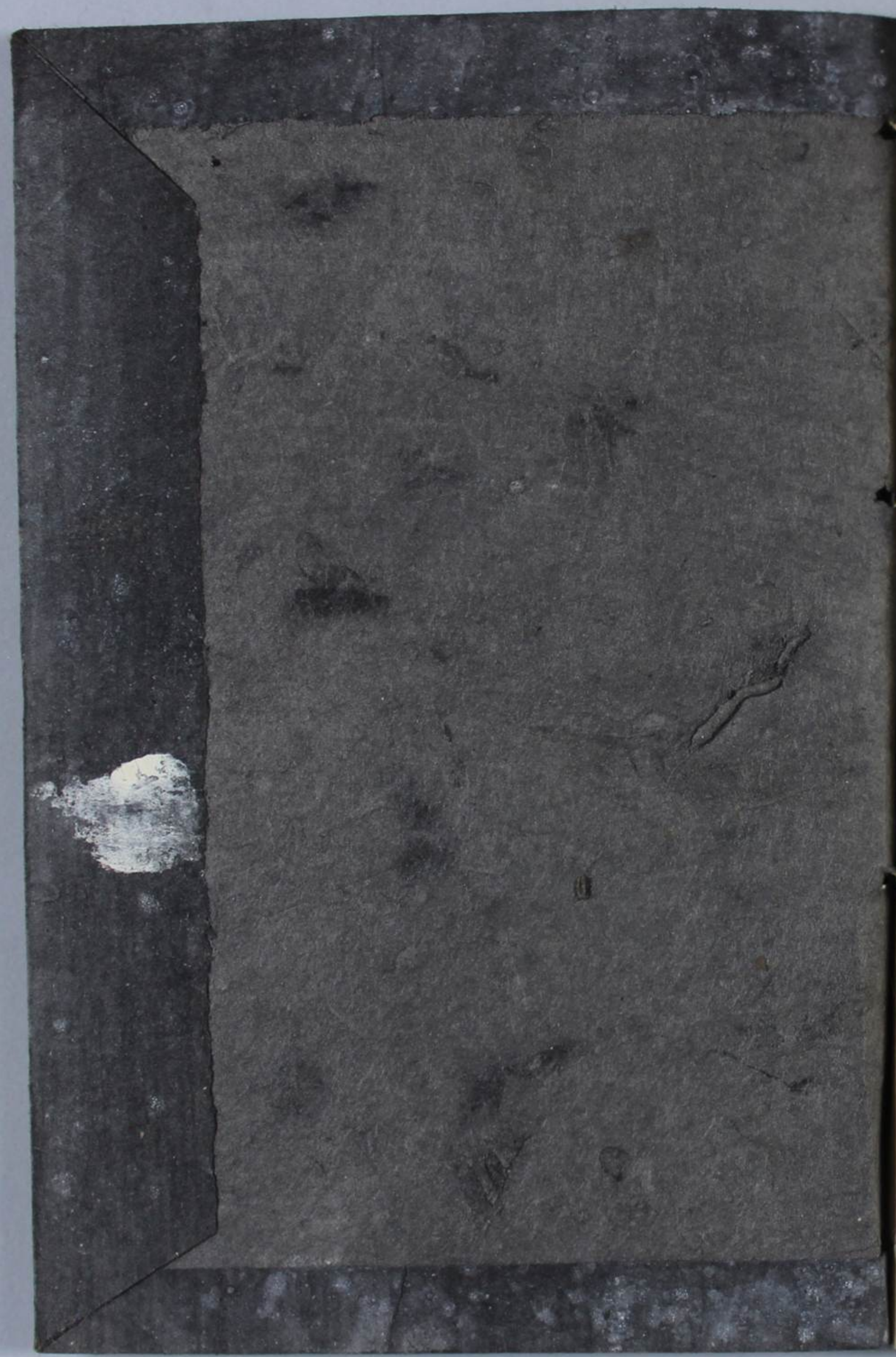






国文  
 24L  
 43





文

圖書

年度

L

3